



「インファーノがTQ獲得、決勝進出台数も最高の6台。」
左から6位の小林英樹・8位の金井祐一・2位の河本篤志・TQ&3位の田中和哉

去る 10/21 より 10/23 まで千葉県：フタババギートラクトサーキットにて「JMRCA 2011 1/8 エンジンオフロードカー全日本選手権」が行われた。

今大会は全国の地区予選から選抜となる計 30 名のインファーノユーザー。

前年度チャンピオンに輝いたデフェンニングチャンピオン田中和哉選手を筆頭に我ら RED SAMURAI の今年も日本一を目指す白熱したレースを展開した。

大会初日

今朝の天気予報によると、大会 2 日目の土曜日と決勝日となる日曜日は雨模様の予想。運営側も急遽大会初日のスケジュールを変更し、大会初日に予選を 3 ラウンドが行われる。

受付終了後コースではオープニングセレモニーが行われ、今大会に参加する選手の集合写真とドライバーズミーティングがあった。そして定刻の朝 9 時 30 分より各ヒート 10 分間の練習走行が開始。

この練習走行では仮組合せの各ヒート 10 分間走行の中で、一周のベストラップタイムを計測。そのベストラップの結果を元にこの後行われる予選の組分けが確定する。

【練習走行】

練習走行では唯一 39 秒台へと入れ込んだ篠宮 猛選手。前年度までは他社の車を使用していたが、今年からはインファーノ MP9 TKI2 を使用。篠宮 猛選手といえば、過去 2001 年にはチーム京商ジャパンとして京商ワークスに在籍。全日本のチャンピオンにも輝いた戦歴を持つトップドライバー。

僅差では有るが、前年度全日本チャンピオンのチーム京商インターナショナルの田中 和哉選手が 2 番手と続く。

【予選開始】

予選 1 ラウンドは 11 時 10 分から開始された。天候も曇り空の条件の中、練習走行から路面コンディションの大きな変動もなく、ヒートも順調に進む。

多くの選手はタイヤ選択に悩まされていたが、極小ピンに加工したプロライン製のインサイドジョブの路面となった第 1 ラウンド。地方からの遠征では初めて目にする難しい路面/タイヤ選択の中、第 1 ラウンド制したのは事前練習より好調の田中 和哉選手。

京商インファernoMP 9 TKI 2 の幸先が良いスタートとなった。

第 2 ラウンドではコースグリップも安定し、レースも序所にはペースがあがり各選手のベストラップも更新しはじめた。

チーム京商インターナショナルの田中 和哉選手が 1 ラウンド目と同様に安定した走りを見せ、2 ラウンド目でもトップタイムをマークする。2 番手には練習走行でスーパーラップをマークした篠宮 猛選手となった。

第 2 ラウンドが終了後のインターバルの合間、ごく僅かながら雨粒が落ち始めた。路面にはしっかりと水が含み、本日最終ラウンドが午後 3 時前からスタートとなる。

第 3 ラウンドではインターバルの間に落ちた雨粒で路面が変わり、よりタイヤ選択の難しさが出てくる。我ら RED SAMURAI が出番となる後半には路面も落ち着きだし、今回行われる第 3 ラウンドを田中 和哉選手がヒートトップを取ると T Q 獲得が決定となる大事なラウンド。

RED SAMURAI 達の活躍を多くのサポーターが見守る注目の 3 ラウンド目も、また T Q 獲得に王手となっているプレッシャーも跳ね除け、まさに皇帝とも思える落ち着きの中、伸び伸びとした安定感のあるドライビングコントロールで見事田中 和哉選手が本日行われた全てのラウンドを制する。

それは大会初日で早くも T Q が確定した瞬間をサポーター達は目の当たりにする事になった。

明日行われる予定の残り 2 ラウンドの結果によって、シード選手 2 名が決まる。上位陣のポイント争いも白熱。まったく目が離せない戦いとなる事は誰もが想定できる。今大会の我ら RED SAMURAI 達にもサポーターから応援も集まり、是非とも頑張ってもらいたい。

大会 2 日目

本日の組み合わせは大会初日に結果を元に再度組合せが行わる。また朝一番には発表された組み合わせで、練習走行が行われた。

昨晩から降り始めた雨は今朝方まで残り、大会 2 日目の開催もあやぶられたが、受付時間の朝 8 時には天候が回復。時折青空が覗き込む。

コースではスタッフによる水抜き作業が行われ、大会開始予定時刻を 1 時間延長。10 時より練習走行が始まった。コースのコンディションは雨が思いっきり吸ったウェット路面。思い思いの気持ちで走り出す RED SAMURAI 達。

練習走行の出番となる後半には徐々に路面も落ち着きだし、本日予定している予選ラウンドの残り 2 つが開始となった。

第 4 ラウンド開始する頃には急速に天候が回復。10 月の後半というのに日差しはまるで夏を思わせるほど暑く、そして白熱されるレースがこの後に行われた。

路面自体はまだ湿っており、各選手は練習走行同様スリックタイヤを選択。気温の急激な変化と共に湿度の変化でエンジン調整に余念は無い。

ハイスピードコースならではの難しさもあってオーバースピードになり気味となる走行。各コーナーでは走行ラインが交差し、各選手の路面適応能力が求められる。

そんな中第 4 ラウンドのトップゴールを決めたのは篠宮 猛選手。シード枠を決めるポイント争いは、4 ラウンドが終った時点で更なる激戦となった。レース終了後には通り雨と思われるが大粒の雨。路面もまたもや振り出しに戻ってしまった。

迎える予選最終となる第 5 ラウンドでは、インファーノ MP9 TKI2 を操る現在プライベートで参加している篠宮 猛選手・森田 栄俊選手・河本 周選手・無限精機の大阪選手のポイント争い。この第 5 ラウンドを制するとシード権が確定となる一番の見所。

河本 篤志選手・小林 英樹選手・八木 則行選手・木村 拓也選手ら RED SAMURAI 達もファイナル進出を目指す。インファーノの生みの親でもある金井 祐一選手も最後のラウンドで車も仕上がり、ポイント総合 13 番手となった。

グランドファイナルシードは、初日で TQ が確定している田中選手。2 番手は 4 ラウンド目と 5 ラウンド目を制止した篠宮選手が入り、グランドファイナルのフロントローをインファーノ MP9 TKI2 が決まった。

明日のセミファイナル、そしてグランドファイナルには我ら RED SAMURAI 含め京商ユーザー達の活躍に期待する。

大会最終日

最終日は、朝の雨もあり若干のウェットコンディションでの勝ち上がり決勝レースがスタート。セミファイナルになるとギャラリーの数も多く注目を集める。

A・Bブロックに分かれ開催されたセミファイナルは、インファーンノを使用する、河本 篤志選手・小林 英樹選手・河本 周選手・金井 祐一選手の4名がグランドファイナル進出を決める。

その中でも金井 祐一選手は、通常2回給油の所、なんと1回給油作戦にて見事ファイナル入りを果たし多くのギャラリーを沸かせた。



グランドファイナル進出にインファーンノ MP9 TKI2 は最多の京商6台が進出。決勝1時間のレースを迎える。



決勝ではポールポジションからスタートの田中選手が早々にコースフェンスに引っ掛けてしまい転倒。途中追い上げるものの今度は給油時にエンジンが止ってしまった。

また後半に向かうにつれ上位陣を追従したが一歩及ばず結果は3位となった。

レースは無敵精機の大坂選手・HB車を操る茂木選手・そしてチーム京商インターナショナルの河本篤志選手と、2001年度の全日本選手権チャンピオンになった事もある篠宮選手がリードする。時間の経過と共に周回を重ね、給油のタイミングによってめまぐるしく変わる順位。

ハイグリップ路面とハイスピードなコース。河本周選手とチーム京商ジャパンの小林選手に金井祐一選手もすばらしい走りを見せた。

終盤残り10分をきった時には4番手までに上がってきた田中和哉選手。外周奥から計測ラインに向かって曲がりこんだ際に操縦で押さえ込むことが出来ず3位を走行の茂木選手と接触。篠宮選手もゴールまで残り2分を切った時点で痛恨のメカトラブルが発生。

1位を追いかける河本篤志選手もTOPとの差が10秒から縮めることが出来ず2位でゴールした。

Pos.	M	No.	Name	Laps	Total Time	BestLap
1	●	3	大阪 賢治	87	01:00:06.350	39.252
2	●	5	河本 篤志	87	01:00:16.310	39.864
3	●	1	田中 和哉	87	01:00:20.752	39.325
4	●	4	茂木 誠	87	01:00:31.613	39.577
5	●	6	河本 周	86	01:00:08.581	39.978
6	●	8	小林 英樹	86	01:00:40.013	40.193
7	▲	7	大塚 由雄	85	01:00:10.662	39.830
8	▲	9	金井 祐一	85	01:00:29.941	40.232
9	▼	2	篠宮 猛	84	58:35.171	39.587
10	●	10	井 真宏	84	01:00:11.489	40.141



JMRCA1/8 エンジンバギー全日本選手権に参加頂いた KYOSHO ユーザーの皆様、又応援して下さった方々、運営の皆様、ご協力して頂いた関係者の方にはこの場を借りて心から御礼を申し上げます。今後もインファーノ MP9 TK12 の活躍にご注目ください。

また第 8 回京商マスターズ IN JAPAN でお会いしましょう。